

サウンドバー

取扱説明書

音声を聞く

音声を調節する

BLUETOOTH機能を使う

著作権保護された4Kコンテンツを見る (HT-CT780)

詳細な設定と調整

その他の機能

その他

お買い上げいただきありがとうございます。



警告

電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊のスタートガイドをよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

**警告**

安全のために

(→ 28ページ～33ページもあわせてお読みください。)

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

28～33ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

26ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・
においが
したら、
煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

**危険**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

**警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

**注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



注意



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く

目次

接続と準備 → スタートガイド(別冊)をご覧ください。

安全のために 2

音声を聞く

テレビやブルーレイディスク™レコーダーなどの音声を聞く 4

BLUETOOTH機器の音楽を聞く 5

音声を調節する

サウンド効果を楽しむ(スポーツモードなど) 8

BLUETOOTH機能を使う

スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器から本機を操作する(SongPal) 10

著作権保護された4Kコンテンツを見る(HT-CT780)

4Kテレビと4K機器をつなぐ 12

詳細な設定と調整

設定メニューを使う 14

その他の機能

HDMI機器制御機能を使う 19

“ブラビアリンク”を使う 20

チャイルドロック機能を使う 22

スタンバイ状態時の消費電力を

おさえる 22

バースピーカーを壁に取り付ける 22

サブウーファーを横置きにする(HT-CT380のみ) 24

サブウーファーとワイヤレス接続をする(LINK) 25

その他

使用上のご注意 26

安全のために 28

故障かな?と思ったら 34

各部の名前と働き 40

再生対応フォーマット 44

保証書とアフターサービス 46

主な仕様 47

BLUETOOTH無線技術について 50

ソフトウェア使用許諾契約書 52

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属のリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。リモコンと同等の名前の本体のボタンは、同じ働きをします。

音声を聞く

テレビやブルーレイディスク™レコーダーなどの音声を聞く

入力切換ボタンを繰り返し押して、本体前面表示窓にお好みの入力機器を表示させる。

入力切換ボタンを一度押すと、選ばれている入力機器が本体前面表示窓に表示されます。

入力切換ボタンを繰り返し押すと、以下のように入力機器が切り換わりま

[TV] → [HDMI 1] → [HDMI 2] →
[HDMI 3] → [ANALOG] → [BT]

[TV]

デジタル入力（TV）端子につないだ機器、またはHDMI出力（ARC）端子につないだオーディオリターンチャンネル機能対応のテレビ

[HDMI 1] [HDMI 2]

[HDMI 3]

HDMI入力1、2、3端子につないだBDレコーダーなどの機器

[ANALOG]

アナログ入力端子につないだ機器

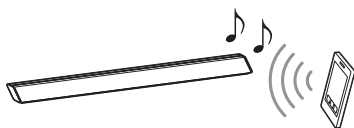
[BT]

BLUETOOTH搭載機器

ちょっと一言

- BLUETOOTH機能がオフに設定されていると、[BT] でなく [BT OFF] が表示されます。

BLUETOOTH機器の音楽を聞く



BLUETOOTH機器を登録する（ペアリング）

BLUETOOTH機能を使うには、あらかじめ接続する機器を登録しておく必要があります。この登録のことをペアリングといいます。

一度ペアリングを行うと、次回以降はペアリングを行う必要はありません。

1 ペアリングボタンを押す。

BLUETOOTHランプ（青色）が速く点滅します（ペアリング中）。

2 BLUETOOTH機器側の設定で、BLUETOOTH機能をオンにし、機種検索をして本機（HT-CT380またはHT-CT780）を選ぶ。

パスコードを要求された場合は、「0000」を入力してください。

3 BLUETOOTHランプ（青色）が点灯していることを確認する（接続完了）。

ご注意

- 本機は9台までの機器を登録することができます。9台分を登録したあと新たな機器をペアリングすると、9台のなかで最後に接続した日時が最も古い機器の登録情報が、新たな機器の情報で上書きされます。
- BLUETOOTH接続完了後、お使いの接続機器によってアプリケーションのダウンロードを促す表示がされることがあります。表示に従うと、本機を操作できるアプリケーション“SongPal”をダウンロードしていただけます。“SongPal”については、10ページの「スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器から本機を操作する（SongPal）」をご覧ください。

登録済みの機器の音声を聞く

- 1 入力切替ボタンを繰り返し押し、[BT] を表示させる。
BLUETOOTHランプ（青色）が点滅します（接続待機中）。
- 2 BLUETOOTH機器側で本機（HT-CT380またはHT-CT780）を選ぶ。
- 3 BLUETOOTHランプ（青色）が点灯していることを確認する（接続完了）。
- 4 BLUETOOTH機器を操作して再生を開始する。

ワンタッチ（NFC）で接続する

スマートフォンを本機のNマークにタッチするだけで、BLUETOOTH機器の登録や接続が行われます。

対応する機器

NFC機能またはおサイフケータイ機能を搭載したスマートフォン、タブレット、ミュージックプレーヤー
（対応OS：Android™ 2.3.3以降、ただしAndroid 3.xを除く）

NFCとは

携帯電話やICタグなど、さまざまな機器間で近距離無線通信を行うための技術です。NFC機能搭載機器のNマークに「タッチする」だけで、簡単にデータ通信が可能となります。

- 1 スマートフォンに「NFC簡単接続」アプリをダウンロードして、起動する。



2 スマートフォンを本機のNマークにタッチする。



3 接続が完了し、BLUETOOTHランプ（青色）が点灯していることを確認する。

ご注意

- 同時に1台のみ接続できます。
- お使いのスマートフォンによっては、あらかじめNFC機能をオンにする必要があります。詳しくは、お使いのスマートフォンの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- 接続がうまくいかないときは次のことを行ってください。
 - － スマートフォンでアプリを起動し、本機のNマークの上でゆっくり動かす。
 - － スマートフォンにケースを付けている場合は、ケースを外す。

音声を調節する

サウンド効果を楽しむ（スポーツモードなど）

さまざまな種類の音源に合わせて調整されたサウンドモードを選ぶことができます。

サウンドモードを選ぶ

サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、お好みのサウンドモードを表示させる。

【CLEARAUDIO+】

ソースに合ったおすすめの設定に自動的に切り換わります。

【STANDARD】

どんなソースにも幅広く対応します。

【MOVIE】

映画に適したサラウンド感、臨場感、迫力が楽しめます。

【SPORTS】

解説が聞き取りやすく、歓声などがサラウンドで聞こえ、臨場感が楽しめます。

【GAME】

ゲームに最適な迫力あるサウンドと臨場感が楽しめます。

【MUSIC】

音楽番組や音楽系のブルーレイディスク、DVDに最適な音質で楽しめます。

【P.AUDIO（ポータブルオーディオ）】

DSEE*を使って、携帯用ミュージックプレーヤーに最適な音質で楽しめます。

* DSEEとは、Digital Sound Enhancement Engine（デジタルサウンドエンハンスメントエンジン）の略称で、ソニーが独自開発した高音域補完および微小音再現技術です。

ナイトモードを設定する

音響効果やセリフの明瞭さに重点を置いた音声を楽しめます。

ナイトモードボタンを押して、**【N. ON】** を表示させる。

ナイトモードを無効にするには、ナイトモードボタンを押して、**【N. OFF】** を表示させます。

ボイスモードを設定する

セリフをより聞き取りやすくします。

**ボイスボタンを繰り返し押し
て、タイプを選ぶ。**

【TYPE 1】

標準の設定です。

【TYPE 2】

セリフ音域を強調します。

【TYPE 3】

セリフ音域の強調に加え、年齢とともに聞こえにくくなる帯域を補強します。

BLUETOOTH機能を使う

スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器から本機を操作する (SongPal)

“SongPal*”は、モバイル機器の画面から本機の操作をすることができるアプリケーションです。

“SongPal”は、Google Play、またはApp Storeから入手できます。お使いになるときは、本機の [BT PWR] の設定を [ON] にしてください (17ページ)。お買い上げ時の設定は [ON] です。

* SongPalはSony | Music Centerにリニューアルしました。Sony | Music Centerは本機でお使いになれます。

Androidをお使いの場合

- 1 本機の電源ボタンを押す。
電源が入ると、バースピーカーの表示窓が点灯します。
- 2 モバイル機器で“SongPal”を検索して、アプリケーションをダウンロードする。
- 3 “SongPal”を起動し、画面に従って操作する。

ちょっと一言

- NFCでの接続画面が出た場合は、11ページの「NFC機能を搭載したモバイル機器でワンタッチ接続 (NFC) をする場合は」をご覧ください。

- 4 BLUETOOTH接続の画面が表示されたら、ペアリングボタンを押す。

バースピーカーのBLUETOOTHランプ (青色) が速く点滅します (ペアリング中)。

- 5 モバイル機器側で、本機 (HT-CT380またはHT-CT780) を選択する。

接続が完了すると、バースピーカーのBLUETOOTHランプ (青色) が点灯します。

- 6 接続したモバイル機器の画面から本機を操作する。

NFC機能を搭載したモバイル機器でワンタッチ接続（NFC）をする場合は

- 1** 「Androidをお使いの場合」の手順1から手順3の操作をする。
- 2** BLUETOOTH接続の画面が表示されたら、モバイル機器をベースピーカーのNマーク部分にタッチする。
接続が完了するとベースピーカーのBLUETOOTHランプ（青色）が点灯します。
- 3** 接続したモバイル機器の画面から本機を操作する。

iPhone/iPod touchをお使いの場合

- 1** 電源ボタンを押す。
電源が入ると、ベースピーカーの表示窓が点灯します。
- 2** ペアリングボタンを押す。
ベースピーカーのBLUETOOTHランプ（青色）が速く点滅します（ペアリング中）。
- 3** モバイル機器で、本機（HT-CT380またはHT-CT780）を選択する。
接続が完了すると、ベースピーカーのBLUETOOTHランプ（青色）が点灯します。
- 4** 接続したモバイル機器で“SongPal”を検索して、アプリケーションをダウンロードする。
- 5** “SongPal”を起動し、接続したモバイル機器の画面から本機を操作する。

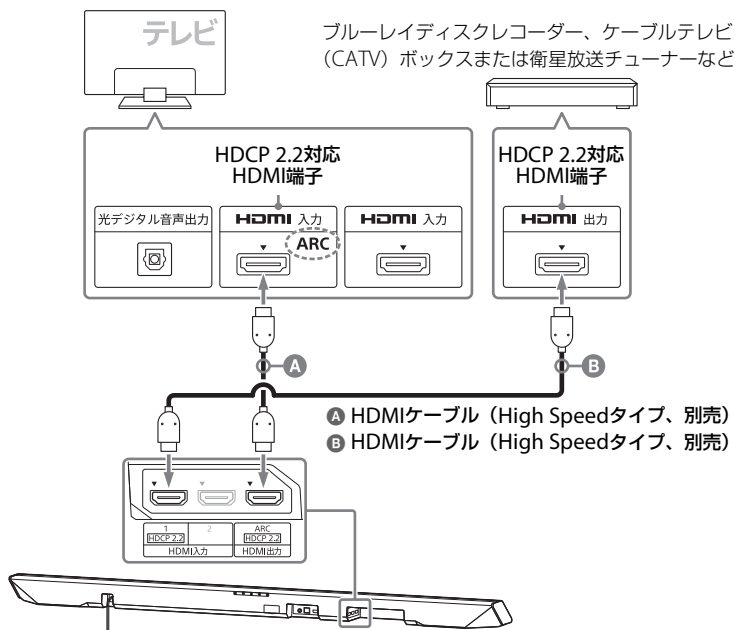
著作権保護された4Kコンテンツを見る（HT-CT780）

4Kテレビと4K機器をつなぐ

著作権保護された4Kコンテンツを見る場合は、それぞれの機器のHDCP 2.2対応HDMI端子同士をつなぎます。著作権保護された4KコンテンツはHDCP 2.2対応のHDMI端子につながらないと視聴できません。

お使いのテレビや機器のどのHDMI端子がHDCP 2.2に対応しているかは、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

テレビのHDCP 2.2対応HDMI端子にARC表示がある場合

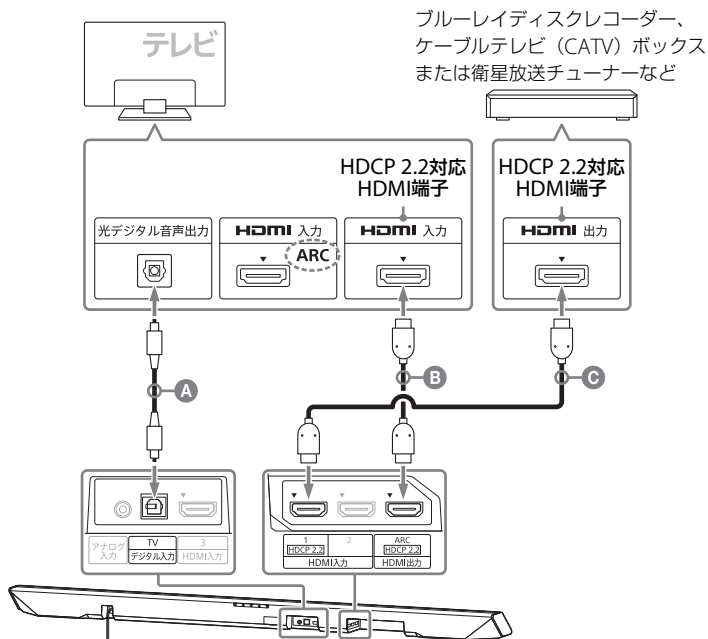


ちょっと一言

- 本機のHDMI入力端子はHDMI 1がHDCP 2.2対応です。
- ARC（オーディオリターンチャンネル）とはHDMIケーブルのみを使ってテレビの音声を本機やAVアンプなどに送る機能です。

テレビのHDCP 2.2対応HDMI端子にARC表示がない場合

テレビの光デジタル音声出力端子に光デジタル音声ケーブルをつないでください。HDCP 2.2対応HDMI入力端子にHDMIケーブルをつないでください。



- Ⓐ 光デジタル音声ケーブル（付属）
- Ⓑ HDMIケーブル（High Speedタイプ、別売）
- Ⓒ HDMIケーブル（High Speedタイプ、別売）

ちょっと一言

- 本機のHDMI入力端子はHDMI 1がHDCP 2.2対応です。

設定メニューを使う

メニューで音声や機能の設定ができます。

お客様の行った設定は、電源コードを抜いても保持されます。

- 1 メニューボタンを押して、本機前面の表示窓にメニュー項目を表示させる。
- 2 戻る／↑↓（選択）／決定ボタンを繰り返し押して設定したい項目を選び、決定ボタンを押して決定する。
- 3 メニューボタンを押して、メニュー表示を消す。

メニュー一覧

お買い上げ時は下線の設定になっています。

メニュー項目		機能
[LEVEL] (レベル)	[DRC] (ダイナミック レンジコントロー ル)	小さい音量でドルビーデジタルサウンドを楽しむときに便利です。 • [ON] : コンテンツ内の情報に基づいて音声を圧縮します。 • [AUTO] : Dolby TrueHDのとき、自動的に音声を圧縮します。 • [OFF] : 音声は圧縮されません。
[TONE] (トーン)	[BASS] (低音)	音声の低域のレベルを調節できます。 • [-6] から [+6] まで、1ずつ設定します。
	[TREBLE] (高音)	音声の高域のレベルを調節できます。 • [-6] から [+6] まで、1ずつ設定します。

メニュー項目	機能
[AUDIO] (音声)	[SYNC] (AVシンク) 映像が音声より遅れている場合、音声を遅らせて、音声と映像のずれを調節します。 • [ON] : AVシンク機能を有効にします。 • [OFF] : AVシンク機能を無効にします。 [DUAL] (デュアルモノ) AAC音声の2か国語放送時に主副音声を切り換えます。 • [M/S] : 左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に出力します。 • [MAIN] : 主音声のみを出力します。 • [SUB] : 副音声のみを出力します。 [EFFECT] (サウンドエフェクト) • [ON] : 選択しているサウンドフィールドの音声になります。この設定で使うことをおすすめします。 • [OFF] : 入力ソースを2chダウンミックスした音声になります。 ご注意 • [OFF] に設定していても、サウンドフィールドを切り換えると自動で [ON] に切り換わります。 [STREAM] (ストリーム) 再生中の音声フォーマットを表示します。再生対応フォーマットについては、44ページをご覧ください。

メニュー項目	機能
[HDMI] [CTRL] (HDMI機器制御)	• [ON] : HDMI機器制御機能を有効にします。 • [OFF] : HDMI機器制御機能を無効にします。HDMI機器制御機能に対応していない機器をつなぐときはこの設定を選びます。
[S. THRU] (スタンバイスルー)	HDMIスタンバイスルー機能の省電力を設定します。 • [AUTO] : 本機スタンバイ時にテレビの電源状態に合わせて、本機のHDMI出力端子から信号を出力します。[ON] 設定時よりもスタンバイ時の消費電力を削減できます。 • [ON] : 本機スタンバイ時にHDMI出力端子から常に信号を出力します。プラビア以外のテレビをお使いのときは、設定を [ON] にしてお使いください。
[ARC] (オーディオリターンチャンネル)	ご注意 • [CTRL] が [ON] のときのみ表示されます。 オーディオリターンチャンネル (ARC) 対応のテレビをHDMIケーブル (High Speedタイプ) で接続し、HDMIケーブル経由でデジタル音声を聞くとときに使用します。 • [ON] : ARC機能を有効にします。 • [OFF] : ARC機能を無効にします。
	ご注意 • [CTRL] が [ON] のときのみ表示されます。

メニュー項目		機能
[SET BT] (BLUETOOTH 設定)	[BT PWR] (BLUETOOTH 電源)	本機のBLUETOOTH機能のオン・オフを切り換えます。 • <u>[ON]</u> : BLUETOOTH機能をオンにします。 • <u>[OFF]</u> : BLUETOOTH機能をオフにします。 ご注意 • <u>[OFF]</u> にするとBLUETOOTHの機能が使用できなくなります。
	[BT.STBY] (BLUETOOTH スタンバイ)	本機に登録した機器の情報がある場合、本機の電源オフ時、BLUETOOTH接続待ち状態にします。 • <u>[ON]</u> : BLUETOOTH接続待ち状態になります。 • <u>[OFF]</u> : BLUETOOTHスタンバイ機能を無効にします。 ご注意 • 本機に登録した機器の情報がない場合は、BLUETOOTHスタンバイ機能が動作しません。
	[AAC] (アドバンスド オーディオコー ディング)	BLUETOOTH接続時に、AAC音源の再生に対応するかどうかを設定します。 • <u>[ON]</u> : AAC対応を有効にします。 • <u>[OFF]</u> : AAC対応を無効にします。 ご注意 • BLUETOOTH接続中に設定を変更すると、BLUETOOTH接続は切断されます。

メニュー項目		機能
[SYSTEM] (システム)	[A. STBY] (オートスタンバイ)	本機を操作しないまま一定時間（約20分）が経過し、本機に音声が入力されていないとき、本機の電源を自動的に切り、無駄な電力消費を抑えます。 • [ON]：オートスタンバイ機能を有効にします。 • [OFF]：オートスタンバイ機能を無効にします。
	[VER] (バージョン)	本機のバージョン情報が表示されます。
	[SYS.RST] (システムリセット)	本機が正常に動作しないときに、本機のメニューやサウンドフィールドなどの設定をお買い上げ時の状態に戻すことができます（39ページ）。
	[UPDATE]* (アップデート)	ホームページにアップデートのお知らせが掲載されます。指示に従ってアップデートを行ってください。
[WS] (ワイヤレスサウンド)	[LINK] (リンク)	ワイヤレスサウンドシステムを再度リンクさせたいときに使用します（25ページ）。
	[RF CHK] (RFチェック)	本機のワイヤレスサウンドシステムが通信可能な状態かを確認します。 • [OK]：通信可能です。 • [NG]：通信できません。

* HT-CT780のみ

その他の機能

HDMI機器制御機能を使う

本機のHDMI機器制御機能の設定を有効にし、HDMI機器制御機能に対応している製品をHDMIケーブル（High Speedタイプ）でつなぐと、下記のような機能を使って操作を簡単に行うことができます。HDMI機器制御機能の設定は【CTRL（HDMI機器制御）】を【ON】にするとお使いいただけます（16ページ）。お買い上げ時の設定は【ON】です。

HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

電源オフ連動

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機とつないだ機器の電源も連動して切ることができます。

システムオーディオコントロール

テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は自動的に本機のスピーカーから出力されます。テレビのリモコンで音量を調節すると、本機の音量を調節できます。前回、本機で音を出していた場合は、次にテレビの電源を入れると、本機の電源が自動で入ります。

オーディオリターンチャンネル（ARC）

オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応したテレビの場合は、HDMIケーブルをつないただけでテレビの音声を本機のスピーカーで聞くことができます。ARC機能は、【ARC（オーディオリターンチャンネル）】の設定を【ON】にするとお使いいただけます（16ページ）。お買い上げ時の設定は【ON】です。

ワンタッチプレイ

本機にHDMIケーブル（High Speedタイプ）で接続した機器（ブルーレイディスクレコーダー、“PlayStation®4”など）を再生すると、自動的にテレビの電源が入り、本機の入力が再生した機器に切り換わります。

オーディオ機器コントロール

「オーディオ機器コントロール」に対応したブラビアをお使いのときは、テレビ画面に本機のメニューが表示されます。テレビのリモコンで、本機の音質設定、サウンドフィールド、入力などの切り換えを操作できます。音質設定では、ボイスレベル、サブウーファア音量、高音レベル、低音レベル、ナイトモード、デュアルモノ、A/V SYNCの設定ができます。

ご注意

- 製品により、対応しないものがあります。
- つないだ機器の設定によっては、HDMI機器制御機能が働かないことがあります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

“ブラビアリンク”を使う

ブラビアリンク対応製品では、ソニー独自の以下の機能も使うことができます。

HDMIスタンバイスルー機能の省電力設定

“ブラビアリンク”に対応したテレビをお使いのときは、本機のHDMIスタンバイスルー機能*（[S. THRU]）を[AUTO]にして電源を切ると、HDMIスタンバイスルー機能を停止させて本機のスタンバイ時の消費電力を削減することができます（16ページ）。お買い上げ時の設定は[AUTO]です。ブラビア以外のテレビをお使いのときは、この設定を[ON]にしてください。

* HDMIスタンバイスルー機能とは、本機スタンバイ時でもHDMI出力端子から信号を出力する機能です。

HDMI機器の接続について

- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Color、3Dおよび4Kの映像が正しく表示できない場合があります。
- HDMI認証を受けたHDMIケーブルをご使用ください。
ケーブルタイプロゴの明記されたソニー製のHigh Speed HDMIケーブルをご使用ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、接続機器により制限されることがあります。
- つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声途切れることがあります。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI出力端子の映像や音声乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、つないだ機器の仕様をご確認ください。
- 本機の入力「TV」のときは、HDMI出力端子からは前回選択されたHDMI入力（HDMI入力 1/2/3）の映像が出力されます。
- 本機はDeep Color、“x.v.Color”、3Dおよび4K伝送に対応しています。
- 3D映像を楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー、“PlayStation®4” など）と本機をHDMIケーブル（High Speedタイプ）でつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。
- 4K映像を楽しむには、本機に接続しているテレビやプレーヤー機器も4K映像に対応している必要があります。

チャイルドロック機能を使う

ベースピーカーのI/O（オン/スタンバイ）ボタン以外のボタンを使えないようにできます。

電源が入っているときに、ベースピーカーのINPUTボタンを約5秒押す。

表示窓に [LOCKED] が出ます。
解除するには、もう一度INPUTボタンを約5秒押して [UNLOCK] を表示させます。

スタンバイ状態時の消費電力をおさえる

スタンバイ状態時の消費電力を削減するには、以下の設定をします。

- －[HDMI] の [CTRL] を [OFF] にする（16ページ）。
- －[HDMI] の [S. THRU] を [AUTO] にする（16ページ）。

ベースピーカーを壁に取り付ける

次の手順でベースピーカーを壁に取り付けることができます。

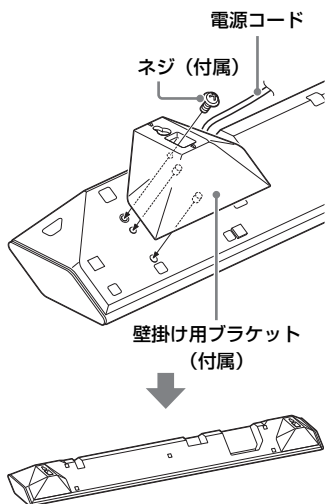
ご注意

- 壁の材質や強度に合わせた市販のネジをご用意ください。壁の材質によっては破損するおそれがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。ベースピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

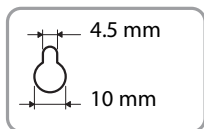
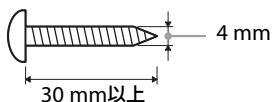
1 バースピーカー底面にある壁掛け用ブラケット取り付け用穴に、付属の壁掛け用ブラケットを図の向きに付属のネジで固定する。

壁掛け用ブラケットはベースピーカー底面の左右2か所に取り付けます。

接続例のイラストはHT-CT780です。



2 壁掛け用ブラケットの穴に合う市販のネジを用意する。

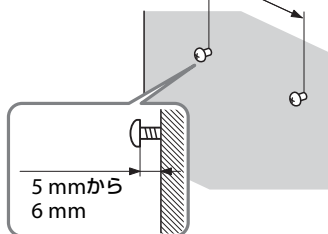


壁掛け用ブラケットの穴

3 壁にネジをとめる。

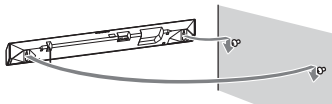
ネジが壁から5 mmから6 mm突き出すようにとめてください。

777.5 mm
(HT-CT380)
876 mm
(HT-CT780)



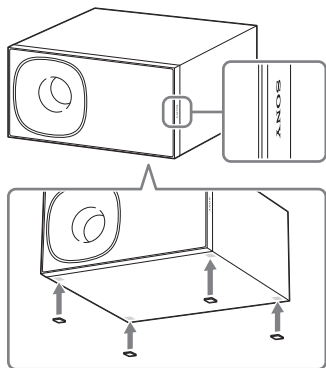
4 バースピーカーに取り付けた壁掛け用ブラケットの穴をネジにかける。

壁掛け用ブラケットの穴とネジの位置を合わせてから、2か所同時にに取り付けてください。



サブウーファーを 横置きにする (HT-CT380のみ)

ソニーロゴが正面から見て右側になる
ように置いてください。



付属のスピーカーパッドを貼って
ください。

サブウーファーとワイヤレス接続をする (LINK)

サブウーファーのワイヤレス接続をやり直します。

- 1 メニューボタンを押す。
- 2 $\blacktriangle$ $\blacktriangledown$ (選択) を繰り返し押し
して [WS] を表示させ、
決定ボタンを押す。
- 3 $\blacktriangle$ $\blacktriangledown$ (選択) を繰り返し押し
して [LINK] を表示させ、
決定ボタンを押す。
- 4 表示窓に [START] が表示
されたら、決定ボタンを押
す。

[SEARCH] が表示され、リンク可能な機器を検索します。1分以内に次の手順に進んでください。機器の検索中にリンク接続を解除するには戻るボタンを押します。

- 5 サブウーファーのLINKボタンを押す。

サブウーファーの電源ランプが緑色に点灯し、バースピーカーの表示窓に [OK] が表示されます。[FAILED] が表示された場合は、サブウーファーの電源が入っていることを確認し、手順1からやり直してください。

- 6 メニューボタンを押す。
メニュー表示が消えます。

その他

使用上のご注意

- 次のような場所には置かないでください。
 - 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
 - チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。このような場合は、本機をこれらの機器から離して設置してください。
 - 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。
- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないでください。
- 使用中に本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 壁掛け時は、下から3 cm以上の高さに取り付けてください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかけられないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

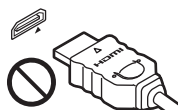


HDMI出力端子につなぐときのご注意

次のような場合、HDMI出力端子やコネクタを破損させるおそれがありますのでご注意ください。

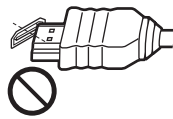
- ケーブルを差し込むときは、本体後面のHDMI出力端子とコネクタの形や向きに注意してください。

HDMI出力



コネクタが逆さに
なっている

HDMI出力



曲がっている

- 本機を移動させるときは、必ずHDMIケーブルを抜いてください。



- HDMIケーブルを抜き差しするときは、コネクタをまっすぐ持ってください。コネクタをねじ曲げたり、HDMI出力端子に強く押しこんだりしないでください。

著作権／商標について

- 本機はドルビーデジタル*およびDolby Digital Plus、Dolby TrueHDデコーダー、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、DTS** およびDTS 96/24デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** DTS特許については、下記のウェブサイトをご覧ください。
<http://patents.dts.com>
 DTS Licensing Limitedに基づき製造されています。DTS、DTS-HD、シンボル、およびDTSとシンボルの組み合わせはDTS, Inc.の登録商標です。

© DTS, Inc. All Rights Reserved.

- BLUETOOTH®とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INC. の商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。
- HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
- “ブラビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- “DSEE”はソニー株式会社の登録商標です。
- “x.v.Color” および “x.v.Color” ロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- “PlayStation®” は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
- NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。
- AndroidとGoogle PlayはGoogle LLCの商標です。
- 「おサイフケータイ」は株式会社N T T D コモの登録商標です。
- “ClearAudio+”はソニー株式会社の登録商標です。

- Apple、iPhone、iPod、iPod touchは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。



- 「Made for Apple」バッジは、アクセサリが本バッジに記載されたアップル製品専用に接続するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしていることを示します。
 アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

対応iPhone/iPod

以下のモデルに対応しています。本機につないで使用する前にiPhone/iPodを最新のソフトウェアにアップデートしてください。
 iPhone 6/iPhone 6 Plus/iPhone 5s/
 iPhone 5c/iPhone 5/iPhone 4s/
 iPhone 4/iPhone 3GS
 iPod touch (5th generation) /
 iPod touch (4th generation)

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。



下記の注意事項を守らないと**火災・感電により死亡や大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。

通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止



下記の注意事項を守らないと**火災・感電により死亡や大けが**の原因となります。

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。



禁止

- 設置時、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

上に乗ったり、座ったりしない

落ちてけがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。



禁止

上に物を置かない

落ちてけがの原因となることがあります。
また、本機を傷める原因となります。



禁止

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



禁止

→ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

設置上のご注意

本機の色でけがをしないようにお気をつけください。

バースピーカーについて

機銘板は底面に貼ってあります。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、
下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間が経ってから症状が現れることがあります。



接触禁止

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



指示

⚠ 警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。



禁止

- 万一、飲み込んだときはただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、
下記の注意事項を必ずお守りください。

警告

+と-の向きを正しく入れる

+と-を逆に入れると、
ショートして電池が発熱や破
裂をしたり、液が漏れたりし
て、けがややけどの原因とな
ることがあります。



指示

→ 機器の表示に合わせて、正しく入
れてください。

使い切ったときや、長期間使用 しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、
過放電により液が漏れ、
けがややけどの原因となるこ
とがあります。



指示

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

本体の操作

電源が入らない

- 電源コードがしっかり差し込まれているか確認してください。

本機が正常に作動しない

- 電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源を入れてください。

本機の電源が勝手に切れてしまう

- オートスタンバイ機能が働いている。[SYSTEM] の [A.STBY] を [OFF] にする（18ページ）。

音声

本機からテレビの音声がでない

- リモコンの入力切換ボタンを繰り返し押し、表示窓に [TV] と表示させる（スタートガイド（別冊）を参照）。
- テレビと本機の電源を入れる順番によっては、本機が消音状態になり、本機の表示窓に「Muting」と表示される場合があります。その場合は、テレビの電源を入れてから、本機の電源を入れてください。
- テレビ（ブラビア）のスピーカー設定をオーディオシステムに切り換える。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビと本機をつないでいる HDMI ケーブル、光デジタル音声ケーブル、またはアナログ音声ケーブルの接続を確認する（スタートガイド（別冊）を参照）。
- テレビの音量を上げる、または消音状態を解除する。
- オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しているテレビを HDMI 接続しているときは、テレビ側の HDMI 入力（ARC）端子に接続されているか確認する。それでも音が出ない、もしくは音が途切れる場合は、付属の光デジタル音声ケーブルを接続し、本機のメニューで [ARC] を [OFF] にする（16ページ）。（接続はスタートガイド（別冊）を参照）

- オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していないテレビをお使いの場合は、HDMI接続してもテレビの音は出ません。光デジタル音声ケーブルで接続する（スタートガイド（別冊）を参照）。
- テレビの光デジタル出力端子から音声が出力されない、またはテレビに光デジタル出力端子が無い場合は、ケーブルテレビ（CATV）ボックス／衛星放送チューナーを直接本機のデジタル入力（TV）端子に接続する。

本機とテレビの両方から音が出る

- テレビを消音する。

映像より音が遅れる

- [SYNC] が [ON] に設定されていたら、[OFF] に設定する（15ページ）。
- 動画を見ている場合、音が映像より遅れて聞こえる場合があります。

本機につないだ機器の音声が出ない、または音が小さい

- リモコンの音量＋ボタンを押して、音量を上げる（43ページ）。
- リモコンの消音ボタンや音量＋ボタンを押して、消音機能を解除する（43ページ）。
- 正しい入力を選んでいるか確認する。また、リモコンの入力切替ボタンを繰り返し押して入力を切り換えてみる（4ページ）。
- つないだ機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する。

サブウーファースの音声が出ない、または小さい

- リモコンのSW音量＋ボタンを押して、サブウーファースの音量を上げる（43ページ）。
- サブウーファースの電源ランプが緑色に点灯していることを確認する。緑色に点灯していない場合は、「ワイヤレスサウンドシステム」の「サブウーファースから音声が出ない」（37ページ）の項目を参照してください。
- サブウーファースは、低音を再生するためのスピーカーです。低音の少ない入力ソース（テレビ放送など）では、サブウーファースの音が聞こえにくいことがあります。
- 著作権保護されたコンテンツを再生した場合は、サブウーファースから音はでません。

サラウンド効果が得られない

- サウンドフィールドの設定と入力信号によっては、サラウンド処理による臨場感が得られないことがあります。また、番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。
- マルチチャンネルの音声を再生するには、つないだ機器のデジタル音声設定を確認する。詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

BLUETOOTH機器

BLUETOOTH接続ができない

- BLUETOOTHランプ（青色）が点灯していることを確認する（40ページ）。

本機の状態	BLUETOOTHランプ(青色)の状態
BLUETOOTHペアリング中	速く点滅
接続待機中	点滅
接続完了	点灯
BLUETOOTHスタンバイ中 (電源オフ時)	消灯

- 接続相手のBLUETOOTH機器に電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認する。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づける。
- 本機とBLUETOOTH機器を再度、ペアリングする。BLUETOOTH機器側で、本機の登録を解除する必要がある場合があります。
- 本機の [BT PWR] が [OFF] に設定されている場合は [ON] にする（17ページ）。

ペアリングできない

- 本機とBLUETOOTH機器をなるべく近づけてからペアリングを行う（5ページ）。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認する。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使う。

つないだBLUETOOTH機器からの音が出ない

- BLUETOOTHランプ（青色）が点灯していることを確認する（40ページ）。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づける。
- 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使う。
- 本機とBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除く。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の位置を変える。
- Wi-Fiルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてみる。
- BLUETOOTH機器側の音量を上げる。

映像より音が遅れる

- 動画を見ている場合、音が映像より遅れて聞こえる場合があります。

サブウーファースのワイヤレスサウンドシステム

サブウーファーから音が出ない

- サブウーファースの電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。
- 電源ランプが消灯している。
 - ーサブウーファースの電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。
 - ーサブウーファースのI/II（電源オン／スタンバイ）ボタンを押して電源を入れる。
- 電源ランプが緑色にゆっくり点滅、または、赤色に点灯している。
 - ー電源ランプが緑色に点灯するようにサブウーファースの位置をベーススピーカースの近くに動かす。
 - ー「サブウーファースとワイヤレス接続をする（LINK）」（25ページ）の手順を行う。
 - ーメニューの「RF CHK」でワイヤレスサウンドシステムの通信状態を確認する（18ページ）。
- 電源ランプが赤色に点滅している。
 - ーサブウーファースのI/II（電源オン／スタンバイ）ボタンを押して電源を切り、サブウーファースの通気孔がふさがっていないか確認する。

- サブウーファースは、低音を再生するためのスピーカースです。低音の少ない入力ソース（テレビ放送など）では、サブウーファースの音が聞こえにくいことがあります。
- リモコンのSW音量＋ボタンを押して、サブウーファースの音量を上げる（43ページ）。

音が途切れる、ノイズが出る

- 無線LANや電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使う。
- バーススピーカースとサブウーファースとの間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除く。
- バーススピーカースとサブウーファースをできるだけ近づける。
- Wi-Fiルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてみる。
- テレビ、ブルーレイディスクレーダーなどの無線LANを有線LANに切り換えてみる。

リモコンが機能しない

TVのリモコンが機能しない

- TVのリモコン受光部が隠れないように本機を設置する。

本機のリモコンが機能しない

- バースピーカー前面の中央（リモコン受光部）に向けて操作する（40ページ）。
- リモコンとバースピーカーとの間に障害物を置かない。
- 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換える。
- リモコンの正しいボタンを押しているか確認する（43ページ）。

その他

HDMI機器制御がうまく働かない

- HDMI接続を確認する（スタートガイド（別冊）を参照）。
- テレビのHDMI機器制御機能の設定を行う。テレビ側の設定方法については、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本機の電源コードを抜き差ししたときは、15秒以上待ってから動作させる。
- つないだ機器が“ブラビアリンク”に対応していることを確認する。
- つないだ機器のHDMI機器制御設定を確認する。お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 映像機器の音声出力をHDMIケーブル以外で本機につなぐと、HDMI機器制御機能が影響して音声が出ないことがあります。その場合は、[HDMI] の [CTRL (HDMI機器制御)] の設定を [OFF] にする（16ページ）か、映像機器の音声出力端子もテレビにつなぐ。

→ “ブラビアリンク”機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。

- ー録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで
- ー再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：3台まで
- ーチューナー関連機器：4台まで
- ーオーディオシステム（AVアンプ／ヘッドホン）：1台まで（本機が使用します）

バースピーカーがスタンバイモードのとき、テレビから映像が出ない

- [S. THRU] が [ON] に設定されているか確認する（16ページ）。

バースピーカーの表示窓に [PRTECT (プロテクト)] が表示される。

- I/O（入／スタンバイ）ボタンを押して電源を切り、表示が消えたら、電源コードを抜き、本機の通気孔がふさがっていないか点検する。

表示窓の表示が消えている

- リモコンの本体表示がオフに設定されていたら、明るいまは暗いに設定する（43ページ）。

テレビの各種センサーが正常に動作しない

→ バースピーカーの置きかたによっては、バースピーカーがテレビの各種センサー（明るさセンサーなど）や、リモコン受光部、赤外線方式3Dグラス対応の3Dテレビの3Dグラス用発信部（赤外線通信）、無線通信をさえぎる可能性があります。その場合は、各種センサーなどが正常に動作する位置までバースピーカーをテレビから離してください。各種センサーやリモコン受光部の位置については、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

リセット

上記の処置をしても正常に動作しないときはリセットしてください。

- 1 電源ボタンを押して本機の電源を入れる。
- 2 メニューボタンを押す。
- 3 **↑↓**（選択）ボタンを繰り返し押し続けて【SYSTEM】を表示させ、決定ボタンを押す。
- 4 **↑↓**（選択）ボタンを繰り返し押し続けて【SYS.RST】を表示させ、決定ボタンを押す。

- 5 バースピーカーの表示窓に【START】が表示されたら、決定ボタンを押す。

表示窓に【RESET】と表示され、メニューやサウンドモードなどの設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

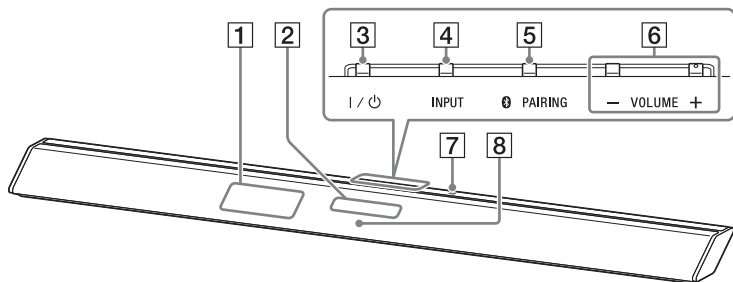
- 6 表示窓の【RESET】の表示が消えたら、電源コードを抜く。
- 7 本機の電源コードをつないで、電源ボタンを押して電源を入れる。
- 8 本機とサブウーファーをワイヤレス接続する（25ページ）。

各部の名前と働き

詳しい説明は（ ）内のページをご覧ください。

バースピーカー

前面／上面



① リモコン受光部

② 表示窓

③ I/⏻ (入／スタンバイ) ボタン

④ INPUT (入力切換) ボタン
インプット
(4、22ページ)

⑤ PAIRINGボタン (5ページ)
ペアリング

⑥ VOLUME (音量) +／- ボタン
ボリューム

⑦ Nマーク (6ページ)

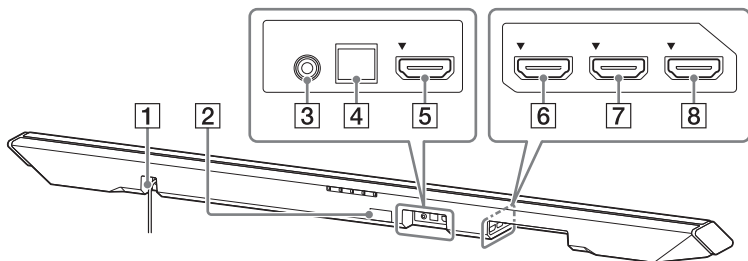
NFC機能を使うときは、NFC機能
対応機器をここに近づけます。

⑧ BLUETOOTHランプ (青色)

BLUETOOTH状態表示

- BLUETOOTHペアリング中：
速く点滅
- 接続待機中：点滅
- 接続完了：点灯
- BLUETOOTHスタンバイ中
(電源オフ時)：消灯

後面



① 電源コード

② アップデート UPDATE端子 (HT-CT780のみ)

本機のアップデート専用です。

③ アナログ入力端子

④ デジタル入力 (TV) 端子

⑤ HDMI入力 3端子

⑥ HDMI入力 1端子

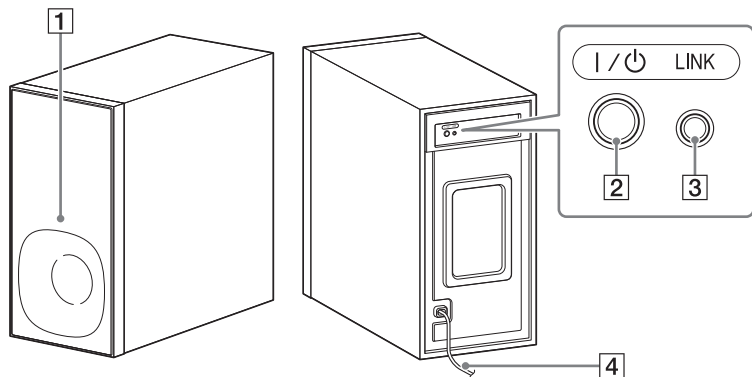
HT-CT780はHDCP 2.2対応です。

⑦ HDMI入力 2端子

⑧ HDMI出力 (ARC) 端子

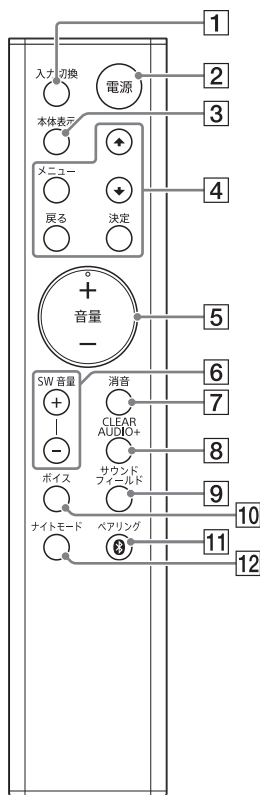
HT-CT780はHDCP 2.2対応です。

サブウーファー



- 1 電源ランプ
- 2 I/⏻ (入/スタンバイ) ボタン
- 3 リンク LINKボタン (25ページ)
- 4 電源コード

リモコン



① 入力切換ボタン (4ページ)

② 電源ボタン

③ 本体表示ボタン

表示窓の明るさを切り換えます (明るい／暗い／オフ)。

- 「オフ」に設定すると、リモコンや本体のボタンを操作したときに、操作状態を数秒間表示し、その後消灯します。

④ メニュー／ $\uparrow$ $\downarrow$ (選択)／決定／戻るボタン (14ページ)

$\uparrow$ $\downarrow$ (選択) ボタンを押して設定を選び、決定ボタンで決定します。

前の表示に戻るには戻るボタンを押します。

⑤ 音量+*／－ボタン

音量を調節します。

⑥ SW音量+／－ボタン

低音の音量を調節します。

⑦ 消音ボタン

音を一時的に消します。

⑧ CLEARAUDIO+ボタン

ソースに合ったおすすめの音設定に自動的に切り換わります。

⑨ サウンドフィールドボタン (8ページ)

サウンドモードを選びます。

⑩ ボイスボタン (9ページ)

⑪ ペアリングボタン (5ページ)

⑫ ナイトモードボタン (8ページ)

* 音量+ボタンには、凸点 (突起) が付いています。操作の目印としてお使いください。

再生対応フォーマット

本機で対応するデジタル音声入力フォーマット

本機で対応するデジタル入力フォーマットは以下のとおりです。

Dolby Digital

Dolby Digital Plus*

Dolby TrueHD*

DTS

DTS 96/24

DTS-HD Master Audio*

DTS-HD High Resolution Audio*

DTS-HD Low Bit Rate*

MPEG2-AAC

リニアPCM 2ch 48 kHz以下

リニアPCM最大7.1ch 192 kHz以下*

* HDMI接続のみで入力可能です。

HDMI部

入力／出力 (HDMI Repeater block)

ファイル	2D	3D		
		Frame packing	Side-by- Side (Half)	Over- Under (Top-and- Bottom)
4096 × 2160p @ 59.94/60 Hz*	○	—	—	—
4096 × 2160p @ 50 Hz*	○	—	—	—
4096 × 2160p @ 23.98/24 Hz**	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 59.94/60 Hz*	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 50 Hz*	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 29.97/30 Hz**	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 25 Hz**	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 23.98/24 Hz**	○	—	—	—
1920 × 1080p @ 59.94/60 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 50 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 25 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
720 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—
720 × 576p @ 50 Hz	○	—	—	—
640 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—

* YCbCr 4:2:0 / 8bit対応のみ

** 8bit対応のみ

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックとご相談を

「故障かな?と思ったら」の項を参考に、故障かどうかを点検してください。

それでも具合が悪いときはソニーの相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-CT380/HT-CT780
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名

- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

ベーススピーカー (SA-CT380, SA-CT780)

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、
JEITA¹⁾）：

SA-CT380

フロントL：

90 W、1 kHz、4 Ω

フロントR：

90 W、1 kHz、4 Ω

SA-CT780

フロントL：

100 W、1 kHz、4 Ω

フロントR：

100 W、1 kHz、4 Ω

入力端子：

HDMI入力²⁾ 1/2/3

アナログ入力

デジタル入力（TV）

出力端子：

HDMI出力³⁾（ARC）

¹⁾ JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

²⁾ HT-CT380のHDMI入力端子（1/2/3）には、機能上の違いはありません。
HT-CT780のHDMI入力端子1はHDCP 2.2規格に対応しています。HDCP 2.2は4K画像などのコンテンツ用に新しく強化された著作権保護技術です。それ以外のHDMI入力端子（2/3）には、機能上の違いはありません。

³⁾ HT-CT780のHDMI出力端子はHDCP 2.2規格に対応しています。HDCP 2.2は4K画像などのコンテンツ用に新しく強化された著作権保護技術です。

HDMI部

端子：

19ピン標準コネクタ（Type A）

BLUETOOTH部

通信方式：

BLUETOOTH標準規格 Ver. 3.0

出力：

BLUETOOTH標準規格 Power Class 2

最大通信距離：

見通し距離 約10 m¹⁾

登録台数：

9台まで

使用周波数帯域：

2.4 GHz帯（2.4000 GHz - 2.4835 GHz）

変調方式：

FHSS

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾：

A2DP 1.2（Advanced Audio Distribution Profile）
AVRCP 1.3（Audio Video Remote Control Profile）

対応コーデック³⁾：

SBC⁴⁾、AAC⁵⁾

対応コンテンツ保護：

SCMS-T方式

伝送帯域（A2DP）：

20 Hz - 20,000 Hz（44.1 kHzサンプリング時）

¹⁾ 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。

²⁾ BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したもの。

- 3) 音声の圧縮、変換のフォーマット。
4) Subband Codecの略。
5) Advanced Audio Codingの略

フロントL／フロントRスピー カー部

形式：

SA-CT380：フルレンジスピー
カーシステム（アコースティック
サスペンション型）
SA-CT780：2ウェイスピーカーシ
ステム（アコースティックサス
ペンション型）

使用スピーカー：

SA-CT380：60 mm コーン型
SA-CT780：
ウーファー：60 mm コーン型
ツイーター：19 mm ソフトド
ーム型

一般

電源：

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力：

SA-CT380：
電気用品安全法による表示：
37 W
スタンバイ状態：0.3 W以下
（消費電力削減時、22ページ参照）
スタンバイ状態：0.5 W以下
[S. THRU] が [ON] の場合：
6 W以下
SA-CT780：
電気用品安全法による表示：
40 W
スタンバイ状態：0.3 W以下
（消費電力削減時、22ページ参照）
スタンバイ状態：0.5 W以下
[S. THRU] が [ON] の場合：
6 W以下

最大外形寸法（幅/高さ/奥行き）

（約）：

SA-CT380：
900 mm × 51 mm × 117 mm
（壁掛け用ブラケット非装着時）
900 mm × 120 mm × 72 mm
（壁掛け用ブラケット装着、壁取
り付け時）
SA-CT780：
1,030 mm × 55 mm × 117 mm
（壁掛け用ブラケット非装着時）
1,030 mm × 120 mm × 74 mm
（壁掛け用ブラケット装着、壁取
り付け時）

質量（約）：

SA-CT380：2.4 kg
SA-CT780：2.8 kg

サブウーファー （SA-WCT380、 SA-WCT780）

実用最大出力（非同時駆動、

JEITA*）：

SA-WCT380：
90 W、100 Hz、4 Ω
SA-WCT780：
100 W、100 Hz、4 Ω

* JEITA（電子情報技術産業協会）規定によ
る測定値です。

形式：

サブウーファーシステム バスレフ
型

使用スピーカー：

SA-WCT380：
130 mm コーン型
SA-WCT780：
160 mm コーン型

電源：

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力：

SA-WCT380：

電気用品安全法による表示：
20 W

スタンバイ状態のとき：

0.5 W以下

SA-WCT780：

電気用品安全法による表示：
30 W

スタンバイ状態のとき：

0.5 W以下

最大外形寸法（約）（幅／高さ／**奥行き）：**

SA-WCT380：

170 mm × 342 mm × 381 mm

（縦置き時）

342 mm × 172 mm × 381 mm

（横置き時）

SA-WCT780：

191 mm × 382 mm × 390 mm

質量（約）：

SA-WCT380：6.6 kg

SA-WCT780：7.9 kg

本機の仕様および外観は、改良のため
予告なく変更することがありますが、
ご了承ください。

ワイヤレストランスミッ ター／レシーバー部

通信方式：

Wireless Sound Specification
version 2.0

使用周波数帯域：

2.4 GHz帯 (2.4000 GHz -
2.4835 GHz)

変調方式：

Pi / 4 DQPSK

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10 m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。

無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。BLUETOOTH標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機が対応しているBLUETOOTHのバージョンとプロファイルについて詳しくは、「主な仕様」(47ページ)をご覧ください。

ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

通信有効範囲

見通し距離で約10 m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE802.11b/g) は同一周波数帯 (2.4 GHz) を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、他の無線LAN搭載機器から10 m以上離れたところで行う。
- 10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- － 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- － 自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIG. Inc.の定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4 X X 1

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。与干渉距離は10 mです。

2.4 F H 1

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10 mです。

電波法に基づく認証について

本機に内蔵された無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機に内蔵の無線装置を分解／改造すること

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、ソニー株式会社（以下「ソニー」とします）とお客様との間でのソニーソフトウェア（コンピューターソフトウェア、マニュアルなどの関連書類及び電子文書並びにそれらのアップデート・アップグレード版を含み、以下「許諾ソフトウェア」とします）の使用権の許諾に関する条件を定めるものです。許諾ソフトウェアをご使用いただく前に、本契約をお読み下さい。お客様による許諾ソフトウェアの使用開始をもって、本契約にご同意いただいたものとします。

なお、許諾ソフトウェアの中には、ソニー以外のソフトウェアの権利者が定める使用許諾条件（GNU General Public license (GPL)、Lesser/Library General Public License (LGPL)を含みますが、これらに限られるものではありません）を伴うソフトウェア（以下「対象外ソフトウェア」とします）が含まれている場合があります。対象外ソフトウェアのご使用は、各権利者の定める使用許諾条件に従っていただくものとします。

第1条（総則）

許諾ソフトウェアは、日本国内外の著作権法並びに著作権者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法令によって保護さ

れています。許諾ソフトウェアは、本契約の条件に従いソニーからお客様に対して使用許諾されるもので、許諾ソフトウェアの著作権等の知的財産権はお客様に移転いたしません。

第2条（使用権）

ソニーは、許諾ソフトウェアを、お客様がお持ちの許諾ソフトウェアに対応したデバイス（以下「指定デバイス」とします）上で、私的利用の目的で使用する、非独占的な権利をお客様に許諾します。

第3条（権利の制限）

1. お客様は、許諾ソフトウェアの全部又は一部を複製、複写、譲渡、販売したり、これに対する修正、追加等の改変をすることはできないものとします。また、許諾ソフトウェアに含まれるトレードマークやその他の権利標記等の表示を削除したり、外観の変更をしてはならないものとします。
2. お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアを再使用許諾、貸与又はリースその他の方法で第三者に使用させてはならないものとします。
3. お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアの一部又はその構成部分を許諾ソフトウェアから分離して使用しないものとします。
4. お客様は、許諾ソフトウェアを用いて、ソニー又は第三者の著作権等の

権利を侵害する行為を行ってはならないものとします。

5. お客様は、許諾ソフトウェアに関しリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。
6. 許諾ソフトウェアの使用に伴い、許諾ソフトウェアが自動的に許諾ソフトウェアで用いるためのデータファイルを作成する場合があります。この場合、当該データファイルは許諾ソフトウェアと看做されるものとします。

第4条（許諾ソフトウェアの権利）

許諾ソフトウェアに関する著作権等一切の権利は、ソニー、ソニーの関連会社又はソニーが本契約に基づきお客様に対して使用許諾を行うための権利をソニー又はソニーの関連会社に許諾した原権利者（以下「原権利者」とします）に帰属するものとし、お客様は許諾ソフトウェアに関して本契約に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第5条（責任の範囲）

1. ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアにエラー、バグ等の不具合がないこと、若しくは許諾ソフトウェアが中断なく稼動すること又は許諾ソフトウェアの使用がお客様及び第三者に損害を与えないことを保証しません。但し、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、当該エラー、バグ等の

不具合に対応するため、許諾ソフトウェアの一部を書き換えるソフトウェア若しくはバージョンアップの提供による許諾ソフトウェアの修補又は当該エラー、バグ等についての問い合わせ先の通知を行うことがあります。本項に定めるソフトウェア及びバージョンアップの提供方法又は問い合わせ先の通知方法はソ

ニー、ソニーの関連会社又は原権利者がその裁量により定めるものとします。また、ソニー、ソニー関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアが第三者の知的財産権を侵害していないことを保証いたしません。

2. 許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のある、許諾ソフトウェア以外の製品、ソフトウェア又はネットワークサービス（当該製品、ソフトウェア又はサービスは第三者が提供する場合に限られず、ソニー、ソニーの関連会社又は原権利者が提供する場合も含みます）は、当該ソフトウェア又はネットワークサービスの提供者の判断で中止又は中断する場合があります。ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のあるこれらの製品、ソフトウェア又はネットワークサービスが中断なく正常に作動すること及び将来に亘って正常に稼動することを保証いたしません。

3. お客様に対するソニー、ソニーの関連会社及び原権利者の損害賠償責任は、当該損害がソニー、ソニーの関連会社又は原権利者の故意又は重過

失による場合を除きいかなる場合にも、お客様に直接且つ現実に生じた通常の損害に限定され且つお客様が証明する許諾ソフトウェアの購入代金を上限とします。但し、かかる制限を禁止する法律の定めがある場合はこの限りではないものとします。

第6条（用途の限定）

許諾ソフトウェアは高度の安全性が要求され、許諾ソフトウェアの不具合や中断が生命、身体への危険、有体物又は環境に対する重大な損害に繋がる用途（例えば、原子力発電所を含む核施設の制御、航空機の制御、通信システム、航空管制、生命維持装置又は兵器）を想定しては設計されています。ソニー、その関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアがこれら高度の安全性が要求される用途に合致することを一切保証しません。

第7条（第三者に対する責任）

お客様が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争を生じたときは、お客様自身が自らの費用で解決するものと、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第8条（著作権保護及び自動アップデート）

1. お客様は、許諾ソフトウェアの使用に際し、日本国内外の著作権法並びに著作権者の権利及びこれに隣接する

権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法令に従うものとし、また、許諾ソフトウェアのうち、著作物の複製、保存及び復元等を伴う機能の使用に際して、ソニーが必要と判断した場合、ソニーが、当該著作物の著作権保護のため、かかる許諾ソフトウェアによる複製、保存、復元等の頻度の記録をとり、状態を監視し、さらに複製、保存及び復元の拒否、本契約の解約を含む、あらゆる措置をとる権利を留保することに同意するものとします。

2. お客様は、お客様がソニー又はソニーの指定する第三者（ソニーの関連会社を含む）のサーバーに指定デバイスを接続する際、次の各号に同意するものとします。

（ア）許諾ソフトウェアのセキュリティ機能の向上、エラーの修正等の目的で許諾ソフトウェアが適宜自動的にアップデートされること、

（イ）当該許諾ソフトウェアのアップデートに伴い、許諾ソフトウェアの機能が追加、変更又は削除されることがあること

（ウ）アップデートされた許諾ソフトウェアについても本契約の各条項が適用されること

第9条（ネットワークサービス）

許諾ソフトウェアは、ネットワークサービスを通じて利用可能となるコンテンツと共に使用されることを想定している場合があります。コンテンツ及びネットワークサービスを利用するにあたっては、当該ネットワークサービ

スのご利用条件に従っていただく必要があります。かかるご利用条件にご同意いただけない場合、許諾ソフトウェアの利用は限定的なものとなる場合があります。ネットワークサービス又はコンテンツのご利用にあたっては、インターネット環境が必要となります。インターネット環境の整備、セキュリティ及びその費用についての責任はお客様にあるものとします。尚、許諾ソフトウェアの動作や機能は、インターネット環境により限定的なものとなる場合があります。また、ネットワークサービスの中止又は終了及びインターネット環境等により、許諾ソフトウェアと共に使用されるコンテンツが利用できなくなる場合があります。

第10条（契約の解約）

1. ソニーは、お客様が本契約に定める条項に違反した場合、直ちに本契約を解約し、またはそれによって蒙った損害の賠償をお客様に対し請求できるものとします。
2. 前項又はその他の事由で本契約が終了した場合でも、第4条、第5条乃至第13条の規定は有効に存続するものとします。

第11条（許諾ソフトウェアの廃棄）

前条の規定により本契約が終了した場合、お客様は契約の終了した日から2週間以内に許諾ソフトウェアおよびその複製物を廃棄するものとし、その旨を証明する文書をソニーに差し入れるものとします。

第12条（契約の改訂）

ソニーはお客様が登録した電子メールアドレスへの電子メールの発信、ソニー所定のサイトでの告知又はその他ソニーが適切と判断する方法をもってお客様に事前に通知することにより、本契約の条件を改訂することがあります。お客様はかかる改訂に同意しない場合は、本契約の条件改定の発効日前までに、ソニーにその旨を連絡するとともに直ちに許諾ソフトウェアの使用を中止するものとします。本契約の条件改訂の発効日以降のお客様による許諾ソフトウェアの使用をもって、お客様は改訂されたソフトウェア使用許諾契約書に同意したものとします。

第13条（その他）

1. 本契約は、日本国法に準拠するものとします。
2. お客様は、許諾ソフトウェアを日本国外に持ち出して使用する場合、適用ある輸出管理規制、法律、命令に従うものとします。
3. 本契約は、消費者契約法を含む消費者保護法規によるお客様の権利を不利益に変更するものではありません。
4. 本契約の一部条項が法令によって無効となった場合でも、当該条項は法令で有効と認められる範囲で依然として有効に存続するものとします。
5. 本契約に定めなき事項又は本契約の解釈に疑義を生じた場合は、お客様及びソニーは誠意をもって協議し、解決するものとします。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル 0120-333-020	フリーダイヤル 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話 050-3754-9577	携帯電話・PHS・一部のIP電話 050-3754-9599
	※取扱説明書・リモコン等の購入相談は こちらへお問い合わせください。

FAX (共通) 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「3 0 6」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつながります。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

HDMI



* 4 5 6 5 1 2 3 0 4 * (1)